

6月のブルーベリー農園その1（東広島市豊栄町）

防鳥ネットを張る。農園の中に白いネットの一角が現れてぼつぼつ摘み取りの季節に入ったことをそれとなく

周りに知らせる景色となる。娘にも手伝ってもらい3人がかりでネットを設置した。平日に何日か農園に行き作業し、5日の土曜日には管理しているため池の法面の草刈りを行う。フキが生えていたので持ち帰って食卓に。



6月1日（火）。

① 農園の家には蔵があるがその後ろの庭に毎年咲くのがタイザンボクの花。



② 庭のグイビの実が赤く実る。とって食べる。良く熟しても渋みが取れない。



③ 6月1日（火）。3時の休憩をしていると、我が家然と

してヘビが庭をうろつく。のそりのそりと移動し花壇の茂みに入った。



④ 帰る前に里山のブルーベリー園の見回りをしていたらトンボがとまっているのを見たのでそーっと近づいて撮影。名前知らず。



⑤ この日の主な作業は畑に防草シートを敷くこと。シートを敷くところは3段ある。一番下の畑がほぼ終了。鳶を片手に引っ張る作業なので帰ってしばらくして手首がうずく。





6月3日(水)。田んぼの法面の刈った草の野焼きの様子。火の消えた後には黒焦げの跡がお灸の「やいと」をすえた後黒くなった皮ふのように見えてしまう。



6月6日(日)。

① 午後半日かけて2か所に防鳥ネットを張る。里山と



② 畑。どちらも6月から7月までに実る早生のブルーベリーを植えていて。ヒヨドリなどが食べ尽くすので防鳥ネットは欠かせない。



③ ネットの中の2本のブルーベリーの木には食べられるほどの青色に色づいていて顔がほころぶ。



④ 花壇の中にショウブが開花。農園のあるところの標高は約400mなのでアジサイの花はまだ早い。



⑤ 防草シートを敷きたいが草が伸びていて仕方なく一度草を刈り、そののちに敷くしかない。ブルーベリーの剪定もまだ残っていて、梅雨の天気を気にしながらの作業でちょっとせかせか気分が漂う。

2021年6月8日

社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良

《2021年6月8日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》